

今日は椿八幡宮！

筑豊の
素敵な神様
紹介します



椿八幡宮



神社の歴史 History

戦乱による社殿破壊や火災など約 430 年程余り繰り返し、西暦 1156 年頃、粥田経遠（かいたつねとう）※1 の乱暴に加え戦国時代に入ると、この辺り一帯は主戦場となりました。その被害は、社殿や農民の家、神宮の居宅までもが焼き払われその後、神宮秀村は青柳という姓に改名し農耕のかたわらで神社の再興を訴え続けたのです。そのため、修復が朝廷や幕府によって数回行われる様になり、盛んな時期には宇佐八幡の神領地が多く、代々朝廷幕府の崇敬も厚くされ大宰府の官人達も礼を尽くして参拝していた神社だったのです。

※1 粥田経遠（かいたつねとう）
平安期、鞍手・嘉麻・穂波郡の遠賀川流域に在地領主



誕生 The beginning

椿八幡宮は1263年前、天平勝宝三年（西暦 7 5 1 年）に旧穂波町に誕生した伝統の古い地名を残して居る神社です。当時、宇佐八幡宮から「筑紫水沼の君の後裔秀村安芸大夫長晴※1」を神官兼代官※2とし、ここ椿八幡宮に向かえたことから神社の歴史が見えてきます。西暦 8 9 7 年には救命によって大宰府庁が創建し穂波宮とも呼ぶ様になり、多くの神領封戸を管理し、近隣で最大威勢を誇っていた大きなお宮となり椿八幡宮が誕生したのです。

※1 筑紫水沼の君の後裔秀村安芸大夫長晴（つくしのみぬまのきみ）（筑紫一角に勢力があったとされる豪族）
※2 神官兼代官（神社の祭祀や事務に従事する者・神職）



宮司さんからひとこと♪

近くの氏神様を、
お参りしましょう。

宮司 秀村 長康さん
禰宜 秀村 長利さん

神社のあれこれ教えます！

名前の由来は？

新羅※1 から戻った神功皇后は、生まれたばかりの応神天皇を守って宇佐の地に戻る途中、旧筑穂町大分の里で軍を解散させました。その後、椿の里に立ち寄られた時、堅い木で剣の鐔（つば）※2 を作り、この地に埋め永久の平和を祈願されたと残されています。この事が、椿の地名になったと言われ、現在も社務所の前に椿の木を植えつがれて大切な記念として守られています。当時、椿の村人が神功皇后と応神天皇の御殿（ごてん）の屋根をおおいつくる時、椿の枝を使いました。緑の葉の間には赤い椿の花が美しく咲き「ああ～とてもきれいな椿かな」といい、まだ幼い応神天皇を椿の花であやすと、たちまち機嫌がよくなりスヤスヤと眠られたとか、その事から幼児に椿の花を与えると機嫌がよくなるという言い伝えが今もあります。

※1 新羅（しらぎ）古代の朝鮮半島南東部にあった国家。
※2 鐔（つば）刀剣の柄と刀身との間に挟んで、柄を握る手を防護する部位。

教えて御祭神

- 品陀別命（ほむだわけのみこと）＝応神天皇 勝利の神
- 息長足姫命（おきながたらしひめのみこと）＝神功皇后 子安・安産
- 武内宿禰命（たけうちすくねのみこと）＝神功皇后の付人 延命長寿、開運厄除、諸災消除、商売繁盛、大漁満足、家内安全、病氣平癒、交通安全

どこにあるの？ 住 所 / 〒820-0084 飯塚市椿329 TEL / 0948-22-2299